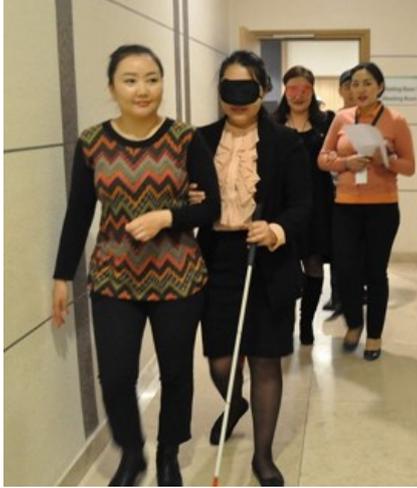


## ウランバートル市における障害者の社会参加促進プロジェクト（JICA/DPUB）

ニュースレター第27号 2019.05

### ホリデイインホテルで「サービスアップ研修」（2019.05.07）



ホリデイインホテルで障害に関する研修を行いました。対象はフロント、レストラン、ルームサービス、エンジニア、人事部や総務部、セールスマーケティング部など、すべての部署。2日間総勢で62名が参加しました。午前の障害平等研修（DET）で障害について理解を深め、午後はサポートの方法を実習。視覚、聴覚、運動障害の3種の機能障害について、介助の仕方を実践しました。「実際に車椅子に乗ってみると、ドアが重くて自分で開けられない」や「入り口にスロープがあっても車が停車していて使えない」など、新たな問題を発見。環境の改善にも努めたいと、感想を語る参加者も多数いらっしゃいました。夜勤明けで参加した職員も最後まで熱心に参加して下さいました。皆さん、よりアクセシブルなホテルを目指して、これからも一緒に頑張りましょう！



研修参加の職員

### 2019年版の障害者白書が発刊されました！（2019.04.29）



労働社会保障省が第2版となる障害者白書を発刊しました。DPUBも作成の過程で協力させていただきました。日本語版も発刊し、英語版も近日中に発刊となる予定です。第2版の特色は、第9章に障害者副委員会の年間活動が盛り込まれたことと、特集の第1章が設けられたことです。アクセシブルな形で労働社会保障省のウェブサイトにも掲載される予定ですが、その際は改めてお知らせします。DPUBとしても障害者白書が基礎情報源として継続的に発刊されていくことを引き続き応援したいと考えています。

### バガノール区の取り組み:区の方針（2019.04.19）



区長とのミーティング

バガノール区は、区長の指揮の下、町を挙げて障害の問題に取り組んでいます。その切っ掛けは、2017年にDPUBが行った研修。1日かけてアクセス改善や障害平等研修（DET）を行い、区長をはじめ行政や企業の管理職の80名が参加しました。「行政機関だけでなく、サービス業者も集めて、建物のバリアを改善しよう、働きかけています」とサンダグオチル区長。設計図からアクセシブルにする必要があるので、建築業者向けに障害理解やアクセス改善の研修を実施してほしいなどの意見がありました。ゲレルマー社会開発課長は、今年1月に行われた日本研修に参加。「日本での学びを実現したい」と、区の全職員対象に報告会を実施。まずは区役所とその周辺へのアクセス改善に取り組むと意気込みを語っていました。

## 聴覚障害者が連携するために何が必要か？（2019. 04. 24）

DPUBで意見交換会を実施しました。他国事例を見ても、障害者団体が連携している国では障害者福祉政策が発展し、そうでない国では発展していません。連携が重要ということはみんな理解しても、連携することは難しい。その理由は为什么呢？コミュニケーション不足、自己利益の優先、リーダー不在、共通理念の欠如、意見の不一致など、様々な要因が上げられました。では解決するには、どうすればいい？話し合う、相互理解を深める、組織を作る、活動計画を立てる、リーダーを育てる、これも様々な意見がでました。タイで学んだことは「共通の利益を探る」ということ。聴覚障害者が手話だけ、視覚障害者が点字だけ、身体障害者が介助者だけを要求したら、みんなの意見はバラバラです。でも、障害者支援者制度が必要と考えれば、相互に協力できるはず。タイではそうやって、障害者団体で同じ目的を共有し、障害者法や教育法、雇用促進法の制定に取り組んできました。調整はもちろん重要。先頭に立つリーダーではなく、調整型のリーダーが重要。自分の意見ではなく、みんなの意見を取りまとめる。そんな努力を繰り返し、タイでは障害者の協議会を運営してきました。タイにできてモンゴルにできないはずはない。ただ、モンゴルはこれからです。まずは聴覚障害者の共通利益として、「手話・字幕付きTV放送」をモンゴルで実現したい。そんな目標を立て、第1回意見交換会は終了しました。次は5月に情報アクセシビリティセミナーを開催し、手話・字幕付きTV放送について協議します。今後の聴覚障害者の発展に期待です。



多くの聴覚障害者が参加した



JICA DPUBのFACEBOOKページに

「いいね」をお願いします。

おかげさまで、今ではページの「いいね」が4966件に達し、より多くの方に情報を発信できるようになりました。これからも、楽しんでいただけるような投稿を目指して頑張ります。引き続き、宜しくお願い致します。

## 情報アクセシビリティという仕事



千葉チーフアドバイザー

さて途上国でもインターネットが普及しだした2000年代前半ですが、実際には多くの障害者が情報社会から隔絶されていました。途上国と先進国間でデジタル・ディバイド（情報格差）が強く懸念されていた時代です。そんな中、アジア太平洋地域の途上国に出張し、障害者のコンピューター利用を調査する仕事にはやりがいを感じました。多くの障害者団体はコンピューターを購入するお金すらなく、インターネットもあまり利用できなかったのですが、一方で、コンピューターには大きな希望を抱いていました。パソコンさえあれば仕事や生活に役立つのに、、、という思いを強く感じました。ただAPCDはパソコンを配る団体ではありません。JICAの技術協力プロジェクトの基本は人材育成です。そこでAPCDでは、ウェブアクセシビリティの改善、音声図書の作成と普及、コンピューター支援機器の利用促進などの研修を実施することにしました。私にとっても初めての試みで、師匠である河村先生に助言頂きながら準備を進めました。この時、アジア太平洋地域から多くの研修生を招聘したことで、自分のネットワークも広がると共に、障害と情報技術に関する知識も深まりました。

## DPUB連絡先

**Office:** Government Building – 2, United Nation’s Street – 5, Ministry of Labor and Social Protection Ulaanbaatar – 15160, Mongolia

**Facebook:** <https://www.facebook.com/jicadpub>

**Website:** <https://www.jica.go.jp/project/mongolia/015/index.html>

**E-mail:** [dpub.jica@gmail.com](mailto:dpub.jica@gmail.com)